

喜多方地方広域市町村圏組合斎場基本設計業務

基本設計図書（概要版）

平成27年 7月

喜多方地方広域市町村圏組合

1. 設計主旨

■基本理念

人生の終焉を送る空間にふさわしい施設づくりを目指します。
故人の最後を飾る場として、厳粛で品格のあるしつらえとし、かつ、心ゆくまでお別れを行なえる場として、清楚で安らぎのある空間とします。

1) 建替えの背景

現在の喜多方地方広域市町村圏組合斎場は、昭和48年に現在地に建設され、40年余が経過していますが、老朽化が進んでいることから、新斎場整備に関する喜多方地方広域市町村圏組合斎場整備検討委員会(以下、委員会)が平成24年11月に設置されました。委員会では敷地選定も含め、整備方針についてとりまとめられ、その報告を基に、新たな斎場整備を推進していくための基本計画が平成26年8月に策定されています。

本設計はその基本計画を踏まえ、基本設計として施設の諸機能、仕様を定めるものです。

2) 計画の与条件

事業計画をはじめ、計画を具体化するに当たり、与条件となるのは下記の通りです。

(詳細は委員会報告書、及び基本計画報告書による。)

① 敷地

現況敷地に隣接する喜多方市有地を用地拡大することで、新斎場整備に必要な敷地を確保します。斜面地であることから、建設に必要な用地の多くは、切土及び盛土により造成するものです。

② 施設運用

火葬機能は継続が必須ですので、現斎場を機能させながらの新斎場整備計画となります。それにより段階的な工事工程、供用開始時期となることが前提となります。

② 火葬機能(火葬炉関係は別途工事)

設置する火葬炉は3基とし、午前、午後3件ずつ、時間をずらしての受け入れとなります。会葬者は概ね30～50人が見込まれるため、1件当たり40人の利用を見込んだ計画とします。

3) 基本コンセプト

新斎場整備、基本理念の具体化にあたり、計画内容の基本コンセプトを以下のように考えます。

- ① 個性性の高いお見送りの場
- ② 機能空間の性格付けとしつらえ
- ③ 周辺環境との調和・共生
- ④ 深積雪への適正対応

① 個性性の高いお見送りの場

斎場は故人を中心として、火葬という一つの終着点にたどり着く場となります。そのお見送りする空間を個性性の高いものにし、いくつか同時に行われる他葬家との干渉を最小限に抑えることで、故人の最期を、より集中してお見送りできる空間を計画します。

② 機能空間の性格付けとしつらえ

斎場は最も感情的な空間ともなりながら、日常にはない“ハレの場(非日常)”でもあります。その中にあるそれぞれの空間に対して機能に合わせた性格付けを明らかにし、しつらえを特徴的にすることで、故人をお見送りする“風景”として、会葬者の感情に寄り添った建築を計画します。

③ 周辺環境との調和・共生

上ノ山中腹に位置し、緑豊かで眺望の開けた場所にあります。静かで落ち着いた雰囲気と心地よい自然環境を十分に取り入れ、各機能に合ったしつらえ、空間を計画します。

④ 深積雪への適正対応

冬場の降雪は、市街地に比べさらに多くなります。落雪による危険性を最小限にしなが、積雪箇所の防水対策、適度な融雪対策を計画します。アクセスに必要な駐車スペースや管理に必要な作業スペースなど、まとまった屋外空間を十分確保できるよう、運用における除雪、堆雪を計画的に手助けします。

1. 配置図



S = 1/500 (A3)

2. 1階平面図

